

集計値出力

1. 概要	2
2. 集計設定項目	3
2-1. 集計値種別	3
2-2. 出力設定	3
2-2-1. 集計値のみ出力	3
2-2-2. データに続けて集計値を出力	4
2-3. 集計条件	4
2-3-1. 全ページの集計値	4
2-3-2. 各ページごとの集計値	4
2-3-3. 挿入する改行数	5
2-3-4. 集計対象データを表示しない	5
3. 設定方法	6
3-1. 集計値を出力するテキスト変数の作成	6
3-2. 集計値設定	7
3-3. プレビュー確認	8

1. 概要

集計値出力機能は、テキスト変数や表オブジェクトによってマッピングされた領域の入力データ（集計対象データ）に対する集計値を出力する機能です。

帳票の出力結果が複数ページとなる場合は、各ページごとの集計値、または全ページの集計値を出力することもできます。

ここでは、テキスト変数についての集計値出力機能を説明します。

※表オブジェクトの集計値出力についての詳細は、マネージャのメニュー

[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.3 フォームオブジェクト」-「表オブジェクト（表組）」をご覧ください。

集計値出力機能を使用する場合は、集計対象のテキスト変数のデータマッピング後に集計値設定ダイアログから集計値の設定を行う必要があります。

<< 注意 >>

テキスト変数のデータマッピングが行われていない場合は、集計値設定を行うことはできません。

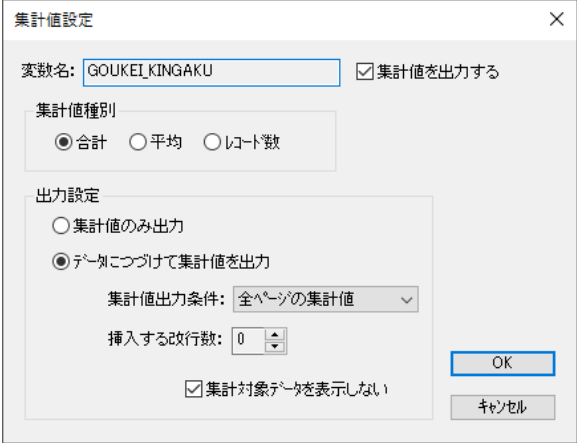
2. 集計設定項目

集計値設定ダイアログはDatamap エディタのツールメニュー [編集]-[集計値設定] から表示します。このダイアログで集計を行う種別、集計値の出力設定を行います。

<< 注意 >>

DB 用 Datamap エディタのみ、フィールドビューの集計項目から集計設定ダイアログを表示します。DB 用 Datamap エディタの詳細な集計値の設定については、マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.2 エディタの操作」-「Datamap エディタ」の「DB 形式の Datamap エディタ」をご覧ください。

図：集計値設定ダイアログ



2-1. 集計値種別

任意のテキスト変数に対して設定できる集計値の種別は以下の通りです。

■ 合計

集計対象データの合計値を出力します。

■ 平均

集計対象データの平均値を出力します。

■ レコード数

集計対象データのレコード数を出力します。

2-2. 出力設定

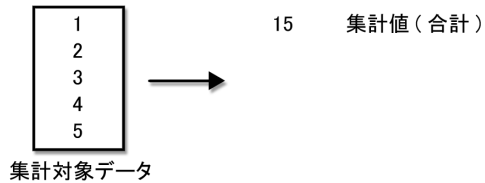
集計値は、以下の二つの方法で出力することができます。

2-2-1. 集計値のみ出力

集計値を出力するテキスト変数には、集計値のみが出力されます。

帳票の出力結果が複数ページとなる場合には、各ページごとの集計値が出力されます。

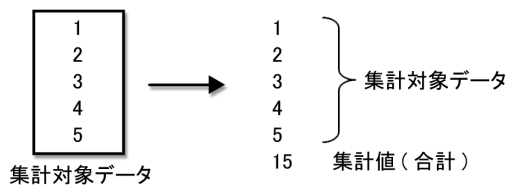
図：集計値のみ出力



2-2-2. データに続けて集計値を出力

集計値を出力するテキスト変数には、集計対象データに続けて集計値が出力されます。このとき、集計対象データと集計値の間に改行を挿入することもできます。

図：データに続けて集計値を出力



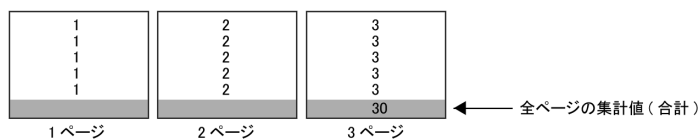
データに続けて集計値を出力する場合は、集計値を出力する条件を設定することができます。設定できる条件は以下の通りです。

2-3. 集計条件

2-3-1. 全ページの集計値

全ページにおける集計対象データの、トータルの集計値を出力します。集計値は、集計対象データが出力される最終ページに集計対象データに続けて出力されます。

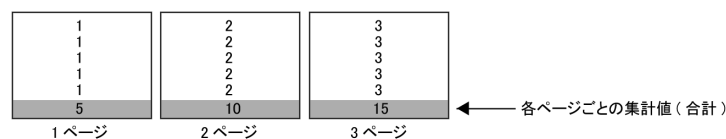
図：全ページの集計値



2-3-2. 各ページごとの集計値

各ページごとの集計対象データの集計値を出力します。集計値は、集計対象データが出力される各ページの集計対象データに続けて出力されます。

図：各ページごとの集計値



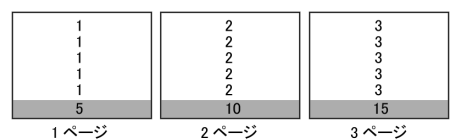
2-3-3. 挿入する改行数

データに続けて集計値を出力する場合は、集計対象データと集計値の間に任意の数（最大 9）の改行を挿入することができます。

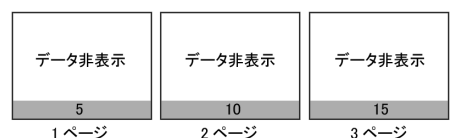
2-3-4. 集計対象データを表示しない

“集計対象データを表示しない”が有効な場合は、集計対象データを表示せず、集計値のみを表示させることができます。また、集計対象データに続けて出力されることはありません。

図：集計対象データを表示する場合



図：集計対象データを表示しない場合



3. 設定方法

ここでは、集計値出力機能を使用した帳票サンプルの作成を通じて、集計値出力の設定方法を説明します。

帳票サンプルの作業ディレクトリは、“帳票資源フォルダ %tut%dynamic” です。

帳票資源フォルダはマネージャの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

3-1. 集計値を出力するテキスト変数の作成

Form エディタで集計値を出力するテキスト変数を作成します。

この帳票サンプルでは、集計対象データに続けて出力する合計値の部分のみにデータ編集を設定するため、集計値のみを表示するテキスト変数を、集計対象データを表示するテキスト変数とは別に作成します。

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャのディレクトリツリーより、“帳票資源フォルダ %tut%dynamic” をクリックします。プレビューエリアから “trans_fee_auto.sty” を選択し、マネージャのツールボタン [フォーム編集] をクリックします。（プレビューをダブルクリックしても同様です。）

図：“trans_fee.fmd”

Inhtec Architects Inc. 0052							
交通費請求明細書				支 払			
MONTH AUTO PAGE				支 払			
所属コード				部署名称		社員番号	
CODE				BUSYO		ID	
氏 名				印			
NAME							
月 日	行 先	交通機関	乗車駅	降車駅	片/往	金 額	
HIZUKE	IKISAKI	KIKAN	JYOUSYA	KOUSYA	C H E	GOUKEI	
					□ / □		

集計値のみを表示するテキスト変数 “GOUKEI_KINGAKU” と、集計対象データを表示するテキスト変数 “KINGAKU” が同じ位置に作成されていることを確認してください。

◆◆ 操作 ◆◆

Form エディタのツールメニュー [ファイル]-[Form エディタの終了] をクリックします。

3-2. 集計値設定

次に、Datamap エディタから集計値出力の設定を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

マルチビューに表示されているデータマップ“trans_fee_auto”をダブルクリックします。

Datamap エディタの変数リストから、集計値設定を行うテキスト変数“GOUKEI_KINGAKU”を選択し、右クリックメニュー「集計値設定」を選択します。

集計値設定ダイアログが表示されます。

図：集計値設定ダイアログ

集計値設定

変数名: ☒ 集計値を出力する

集計値種類

☒ 合計 ☐ 平均 ☐ レポート数

出力設定

☐ 集計値のみ出力

☒ データにつづけて集計値を出力

集計値出力条件:

挿入する改行数:

☒ 集計対象データを表示しない

OK キャンセル

◆◆ 操作 ◆◆

「集計値種類」に「合計」、「出力設定」に「データに続けて集計値を出力」、「集計値出力条件」に「全ページの集計値」、「集計対象データを表示しない」のチェックが「有効」になっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

図：Datamap エディタ

Datamap12 (9 - CSV - [trans_fee_auto.dmp])

変数名 種類 属性 行 項目番号 行続 項目数 ページ出力範囲 集計 重複表示

変数名	種類	属性	行	項目番号	行続	項目数	ページ出力範囲	集計	重複表示
GOUKEI_KINGAKU	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示

変数リスト (左側):

- 変数名: MONTH
- 変数名: CODE
- 変数名: BUSYO
- 変数名: ID
- 変数名: NAME
- 変数名: AUTO_PAGE
- 変数名: HIZUKE
- 変数名: KISAKI
- 変数名: KIKAN
- 変数名: KOUSYA
- 変数名: CHECK
- 変数名: KINGAKU
- 変数名: GOUKEI_KINGAKU

データテーブル (右側):

変数名	種類	属性	行	項目番号	行続	項目数	ページ出力範囲	集計	重複表示
MONTH	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
CODE	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
BUSYO	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
ID	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
NAME	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
AUTO_PAGE	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
HIZUKE	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
KISAKI	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
KIKAN	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
KOUSYA	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
CHECK	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
KINGAKU	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示
GOUKEI_KINGAKU	テキスト	右	1	7	31	1		合計	表示

集計値設定を行ったテキスト変数は、変数リスト上で緑色のアイコンで表示されます。

図：集計値設定を行ったテキスト変数

Datamapエディタ - CSV - [trans_fee_auto.dmp]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) オプション(O) ライブ(L) ヘルプ(H)

変数名	種別	属性	行
MONTH	テキスト	右	1

変数名	値	属性
MONTH	7月2日	宮田
CODE	XYZシステム	JR
BUSYO	日本ソリューション	JR
ID	自宅	JR
NAME	あいうえ生命	宮田
AUTO_PAGE	自宅	宮田
HIZUKE	佐野工業	JR
IKISAKI	西武システムズ	JR
KIKKAN	自宅	JR
JYOUSYA	東京ビックサイ	JR
KOUSYA	東京ビックサイ	宮田
CHECK	ABCコープ	宮田
KINGAKU	日本テクノロジー・都	JR
GOUKEI_KINGAKU	あいうえ生命	宮田
	自宅	宮田
	日本郵政公社	JR
	本社	宮田
	ABCコープ	JR
	ABCコープ	宮田
	中野事業所	宮田
	佐野工業	JR
	佐野工業	宮田
	西武システムズ	JR
	あいうえ生命	宮田
	Create!FormTech	宮田
	中野事業所	JR
	中野事業所	JR

以上で、集計値出力の設定は終了です。

最後に Datamap ファイルを保存して終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

メニュー [ファイル] - [上書き保存] をクリックし、[Datamap エディタの終了] をクリックします。

3-3. プレビュー確認

それでは、このジョブファイル "trans_fee_auto.sty" を使用して出力結果を確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

ジョブリストからジョブファイル "trans_fee_auto.sty" を選択し、マネージャのツールメニュー [実行] をクリックします。

テスト実行ダイアログが表示されます。

図：テスト実行ダイアログ

CreateForm Design V11

ジョブファイル: trans_fee_auto sty 参照(S)...

作業ディレクトリ: C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work\reference\

データ 出力先 オプション データベース Screen設定

ID	テーブル名	テーブル形式	テーブルソース名
1	trans_fee_auto	CSV	trans_fee_auto.csv

追加(A)

マージ追加(M)

削除(D)

↑

↓

実行システム

PDF HTML 印刷

☒ Cast ☐ Screen ☐ Print ☐ PrintStage

実行コマンドライン: -DC:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work\reference\dynamic -st

実行 プレビュー ☒ 実行後このログを開じる 開じる

「データマップ名」に“trans_fee_auto”が表示され、データソース名に“trans_fee_auto.csv”が表示されていることを確認してください。

それでは、実際にテスト実行を行って集計値出力機能を使用した帳票サンプルの出力結果を確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

[実行ランタイム]-[PDF]-[Cast] のラジオボタンが選択されていることを確認して、[プレビュー] ボタンをクリックします。

Adobe Acrobat、あるいは Adobe Reader が起動し、帳票出力イメージが表示されます。

図：プレビュー画面

[illegible]

実行結果を確認して、合計値が正しく出力されていることを確認してください。

以上で集計値出力の設定方法の説明は終了です。